

課題場面別におけるICTを活用した実践事例

実践事例 平仮名や単語をスムーズに読むために、既存のアプリをどのように活用するか。

1 対象児童・生徒の実態

(1) 基本情報

小学校 第2学年 障害種別（読み書き障害）

(2) 学習上又は生活上の困難

- 平仮名、カタカナで似たような文字（「ね」「ぬ」など）を区別して読むことが難しい。
- 読めない文字があるため、単語をまとまりで読むことが難しい。
- 読むこと、読んで理解することが難しいため、学習意欲が下がりがちである。

(3) 困難さの背景・要因

- 仮名文字の一部が似ていると、どの文字なのか迷ってしまう。文字のフォントが違うだけで、分からなくなったこともあった。（例えば、「さ」と「ざ」のように）
- 視機能の課題は、ないように思われる。

2 対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

(1) 指導目標

- 自分が読みづらい平仮名を自覚し、各々の文字の特徴をつかんで区別しながら、平仮名を正しく読むことができる。
- 2～4文字程度の単語（主に、清音）をスムーズに読むことができる。

(2) 学習指導要領との関連

- 2. 心理的な安定 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
- 4. 環境の把握 (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること

(3) 指導目標を達成するために使用する教材（ICT教材等を含む）

①平仮名五十音表

単語をまとまりで読む前提として、平仮名1文字それぞれを正確に区別して覚え、読めるようにすることが必須と考えた。そこで毎回の個別指導で、平仮名五十音を暗唱させる。その後、教師の指差した平仮名を読ませる。音と文字を確実に一致させるようにする。

②例えば「ね」「ぬ」の文字を並べ、どこが違っているか書き込めるようにするワークシート

文字を見比べて、どの部分が区別しづらくなるか言わせる。また、区別するにはどの部分に着目するとよいか言わせる。児童が言った、区別するポイントを教師がワークシートに書き込む。

③区別した文字が含まれる単語（例えば「ねこ」「いぬ」のように）が、10単語程度書かれたワークシート

②で区別した文字が含まれる単語を、まとまりで読む練習する。2文字～3文字の単語を示し、読む練習をする。

④解読指導 1（特別支援学級・通級用の学習用アプリ）：児童のタブレットにインストールされている。最初に平仮名单語が示され、数秒後に挿絵が左側に示される。児童にとって読みづらい単語も、挿絵がヒントになり、読む手助けとなる。5分間で何問できていたか、最後に記録が出る。

⑤幼児用の絵本 各ページ一行程度の文で、児童にとって読む負担が少ないもの

3 ICT教材等について

(1) 課題場面

① 読みに関する場面（解読指導 1 を使って）

(2) 具体的な実践事例または想定される実践

平仮名を区別して読み、まとまりで読めるようになりつつあった時期（本児の場合は、指導開始から半年後の1月下旬）から、この教材を使い始めた。

①アプリを使ってみる。

「単語が示された後、数秒後にヒントの絵が示される」ということを予告しておく。可能なら、絵が出る前に読めるとよい、と伝える。読んだら、自分で（タブレット上の）○を押させるようにした。初回は、5分で100単語程度を読み、誤答は6つくらい。自分で○を押させた・先に進めることに気を取られていたため、間違っているのに気が付かず、アプリの記録は全問正解となった。本児の感想は、「疲れた。」。これまでの単語のまとまり読み練習は、多くて20問程度しか行っていなかったため、5分間で100単語はさすがに疲れたようだった。「絵が出る前に読む」と教師が指示したために、スピード重視にさせてしまったことが反省点である。

②アプリに示される20単語まで、正しく読む。

5分は長過ぎるので、20単語までにしようとして提案。本児が正しく読めていれば、教師が「○」と言う。そして本児が○を押す、というやり方に変更。挿絵が出る前に読もうとしていた。誤答は、「すみれ」のみ。この日に行った別の読み練習でも、「す」は読みづらい様子が伺えた。その他の単語は、スムーズに読むことができた。

③時間をおいて、20単語ずつ読む。

やり方や単語が示されるペースに慣れてきた。単語がランダムに示されるため、読みづらい文字や単語を教師がチェックしやすい。読みづらい文字や単語を重点的に確認する、読む練習をすることに役立てることができた。児童にとっては、示される単語を挿絵が出る前に読もうとするようになり、拾い読みではなく、まとまりで読もうとする意欲へとつながった。

実践してみても

このアプリを使用するためには、ある程度、平仮名を区別して読めるようにしておく必要がある。アプリを使うことが先、ではなく、スムーズな読みの練習のためのツールとして使用したことに意義があったと考える。